



神田弘法会長

2024年辰年の幕が開け、あっという間に1か月が過ぎようとしています。コロナの影響も少なくなり、活動しやすく、自由に動けるありがたさを感じています。今年も当会の「精神障がい者が地域で安心して生活ができる社会を目指す」ための活動を皆様方と一緒に、より積極的に行っていきたいと思いますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## <活動報告 1>

### —精神障がい者の家族と支援者のための勉強会—

2023年8月25日（金）～26日（土）に精神障がい者の家族と支援者のための研修会を別府市の豊泉荘で行いました。従来は2月～3月に行う研修ですが、8月は当会のイベントが少なく、また寒い時期より集まりやすい時期にとの思いから、今年から時期を変更しました。（参加者は70名）



大分県福祉保健部障害福祉課 柳井課長様（左）



大分合同福祉事業団 衛藤事務局長様（右）  
が応援にかけつけてくださいました。



藤波さん

一日目は①「精神障がい者を子どもに持つ父の思い」と②「精神障がい者の方々との接し方」について家族会の会員が講師になり、お話をしていただきました。家族会では、大半が女性会員（母親）で、なかなか父親の気持ちは聞く機会がありません。そこで、今回はお父さんがどんな思いを抱かれているのか、かわりの中でどんな気づきがあったのか等を永年当会の会長をされ、現在は副会長の藤波志郎さんと北九州市あかつき会の元会長の守谷栄二さんに講話をしていただきました。講話では、子供の病気のことを隠さず、周りにオープンにすれば助けてくれる人が必ずいることや当事者との接し方、自分が子供のために家族会に参加し勉強するなど子供と向きあえば子供が変わってくる等のお話がありました。講師おふたりとも子供が私たちを成長させてくれたと話されていました。



守谷さん

また、②では津久見市でNPO法人ちちんぷいぷいあけぼの理事長神田恭子さんに講話をしていただきました。神田さんは理事長である今現在も自己研鑽を怠らず、精力的に活動されており、SSTリーダーの高森先生に師事されています。



神田さん

永年の経験に裏打ちされた神田さんのお話はとても説得力がありました。「本人の今を認める」ことや「コミュニケーションの取り方」について例を挙げながらお話していただきました。「雨が降ったら、当事者に傘をさすより、一緒に濡れる。」「心の病気は薬なしではなおらないけど薬だけでなおる病気ではない」という言葉が印象的でした。

神田さんの講話のように最初から上手に対応できないかもしれないけれど、少しずつでも自分自身が変わっていきこうという気持ちと実践が当事者にとって大事なお薬になるのではないかと感じました。

①②の講話終了後、グループにわかれ、参加者が家族の立場や支援者の立場で、講話を聴いて感じたことや日頃の思いのたけを話し合いました。会場では同じような体験をした者どおしすぐに打ち解け、涙あり、笑いありの話し合いで会場はあたたかい空気に包まれました。

2日目は家族会長会議を開催し、今後の家族会のあり方等を話し合いました。話し合いの中で、どの家族会も会員の減少や高齢化を問題としていましたが、たとえ家族会の規模が小さくなくても、ともしびは消さないようにと当会からのお願いを伝えました。当会も県下8家族会の横のつながりを強くし、県下一体となって活動できるような環境を整えていくことが今の最善策だと信じ、決意をあらたにしました。